

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	鳥取県立皆成学園 児童発達支援事業「わいわいランド」		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 9日		～ 令和7年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 9名		(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 3名		(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童が通所を楽しみにしており、保護者からの満足度も高い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールを使って見通しを示したり、初めての活動は事前にルールを伝えて個別に練習したりする等、お様が安心して活動に参加できるよう工夫しています。</li> <li>・お子様一人ひとりのコミュニケーションの特性を職員間で共通理解し、お子様同士が仲よく遊べるよう遊びの内容や声掛けを工夫しています。</li> <li>・トークンシステムを使い、場面に合った行動ができたことを褒め、行動の定着につなげています。</li> <li>・お子様の興味・関心に合わせた課題を個別学習に取り入れています。</li> </ul>	
2	保護者支援の内容が充実している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様同士の情報交換の時間(ピアカウンセリング)を設けています。ピアカウンセリングでは、先輩保護者(メンター)が同席する機会も設けています。</li> <li>・発達特性をふまえたお子様との関わり方を学べる「ペアレントトレーニング」を実施しています。</li> <li>・活動中に保護者様がお子様と遊ぶ機会を設け、お子様の興味関心への理解を深めたり、関わり方のコツを職員と一緒に考える時間を提供しています。</li> <li>・ご希望に応じて、個別相談に応じています。</li> <li>・先輩保護者や助言者も交えて、悩み相談や情報交換ができる場として、「保護者の集い」を開催しています。</li> </ul>	
3	移行支援の内容が充実している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児の保護者様を対象に、就学についての勉強会を行っています。</li> <li>・定期的な電話連絡や園訪問を行い、お子様の在籍園と連携しながら就学支援を行います。</li> <li>・就学先にお子様の特性や支援方法を伝達するため、ご希望に応じて移行支援会議に出席します。</li> </ul>	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援が必要な児童の割合が増えたことに伴い、小集団(2～3人)が形成しにくくなっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍園で加配保育士が配置される等、園での支援が一般的になってきたことから、小集団療育のニーズが減少していると考えられます。</li> <li>・一方、主治医の意見や在籍園での集団適応の様子から、お子様の発達のペースに合わせた個別支援が適当と思われるケースが増えています。</li> </ul>	個別療育からスタートし、活動や職員に慣れたから小集団療育へ移行する等、柔軟にグループ変更ができるよう工夫しています。
2	・児童発達支援管理責任者等の有資格者の安定的確保が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援管理責任者の資格取得のためには、障害分野における5年以上の実務経験(相談支援業務及び直接支援業務)と2年以上の児童発達支援管理者業務の経験(OJT)が必要ですが、人事異動があるため、要件を満たす職員が不足しています。</li> <li>・児童発達支援管理責任者の資格は5年毎に更新が必要ですが、有資格者が療育以外の分野に異動し、更新研修を受講しなかった場合、資格失効となることがあります。</li> </ul>	療育の経験年数が短い職員も多く、計画的な人材育成が必要となります。皆成学園では、園内研修、園外研修、オンライン研修等を通じて、専門性の向上に努めています。
3			